

景気動向調査の概要について【2026年7～9月】

◆足踏みから緩やかな回復へ移行

景気の現況は、「緩やかに回復している」が25.0%と前期比11.9ポイント増加し、最も多い「足踏み状態」は50.0%と前期比10.9ポイント減少、「緩やかに後退している」は20.9%と前期比3.5ポイント増加した。「後退している」は0.0%となった。

緩やかに回復している

25.0%

前期比 +11.9 pt

足踏み状態（最多）

50.0%

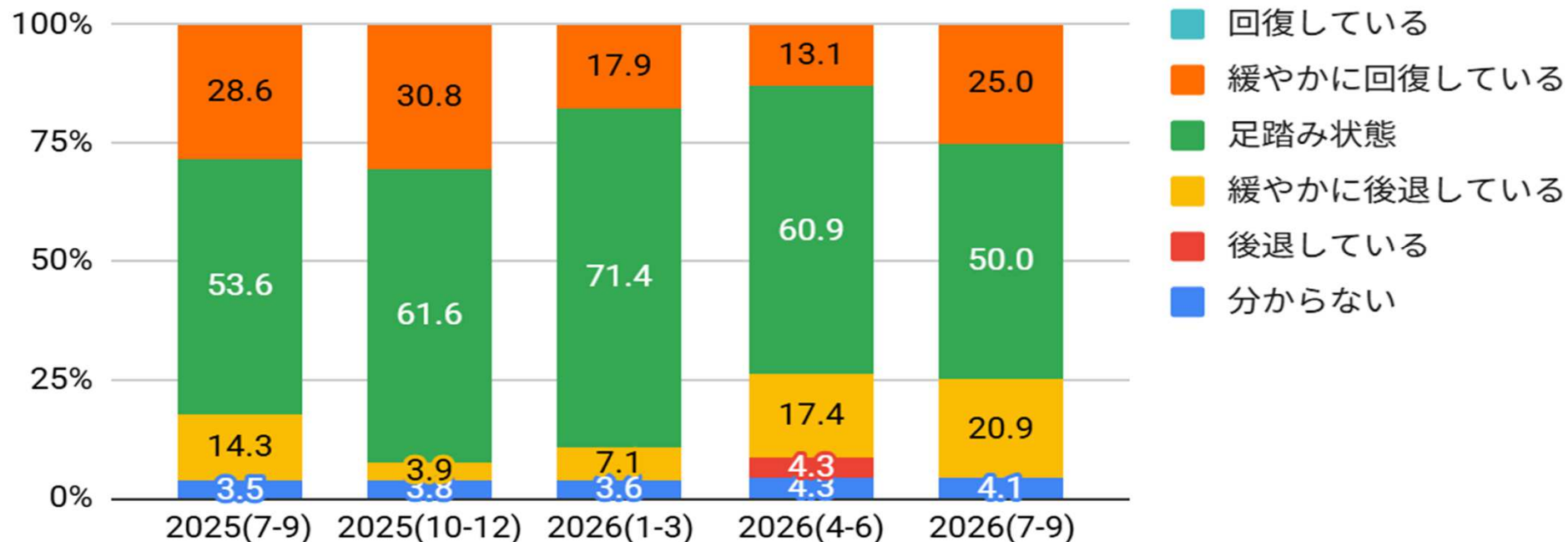
前期比 -10.9 pt

緩やかに後退している

20.9%

前期比 +3.5 pt

1. 景気の現状について（四半期ごとの推移）



景気動向調査の概要について【2026年7～9月】

◆来期は急速な景況感の冷え込みを懸念

今期の業況判断DIは、4.4ポイント減少の0.0（前期4.4）来期の見通しDIは△20.8となり、企業の先行きに対する見方は、急速な景況感の冷え込みを懸念する状況を示した。

今期の業況判断DI

0.0（前期 4.4 / 前期比 -4.4 pt）

来期の見通しDI

△20.8（急速な冷え込みを懸念）

2.前期との比較と来期の見通し

		2025年 7 - 9 月期	2025年10-12月期	2026年 1 - 3 月期	2026年 4 - 6 月期	2026年 7 - 9 月期	2026年10-12月期
前期比	好転	14.3	19.2	14.3	17.4	25.0	-
	不変	64.3	69.2	64.3	69.6	50.0	-
	悪化	21.4	11.5	21.4	13.0	25.0	-
	DI	△ 7.1	7.7	△ 7.1	4.4	0.0	-
来期の見通し	好転	23.1	21.4	11.5	14.3	17.4	12.5
	不変	69.2	64.3	84.6	71.4	65.2	54.2
	悪化	7.7	14.3	3.9	14.3	17.4	33.3
	DI	15.4	7.1	7.6	0.0	0.0	△ 20.8

景気動向調査の概要について【2026年7~9月】

◆ 主要業界別の好不調と景況感の動向

● 製造業

・ 一般機械

建機用油圧機器の回復や設備関連部品が増加する一方で、ガソリン車の需要低迷で自動車用油圧部品は不調。

・ 電気機械

AIやデータセンター向けの電子部品が好調だが、家電向け機器は中国経済低迷の影響で不調。

・ プラスチック

新製品の定着により一部で堅調さが見られる一方、需要一巡による反動減や市場動向で不調な分野もあった。

・ 紙加工

包装資材や段ボールでの値上げ効果と、省人化需要による包装システム販売が好調。

・ 紙流通加工

洋紙、板紙、紙製品において、物価高騰による買い控えの影響で受注量が減少。

● 非製造業

・ 大型店

富裕層や観光客向けの高額品・土産が好調となったが、中間層の節約志向から衣料や食品が不調。

・ 旅行

新規のキャニオンルートツアーが好調。海外旅行は中東情勢や燃油高騰により不調。

・ 都市型ホテル

家族旅行での宿泊は好調だが、企業などの利用が鈍く宴会は不調。

・ リース

商業・スポーツ施設の出店やリニューアル需要で好調となったが、病院等の医療機器は投資抑制で不調。

・ 不動産

建設費高騰や金利上昇で新築住宅が不調となり、賃貸住宅への流入が進んでいる。

景気動向調査の概要について【2026年7～9月】

◆ 政策金利引き上げに伴う影響と各企業の対応

今回、政策金利の引き上げに伴う民間金融機関の金利動向への影響や見込みと、検討・実施している対策を聞いた。

● 製造業

【懸念される影響・課題】

支払利息の増加や財務負担が懸念される。

【検討・実施している対策】

- 借入返済による負債削減
- CP（コマーシャル・ペーパー）調達
- 資金効率向上などの対策を進めている

● 非製造業

【懸念される影響・課題】

利払い増に加え、設備投資の停滞を懸念。

【検討・実施している対策】

- 新規投資の慎重化
- 手元資金の運用工夫

< 実施要領 >

1. 調査期間

2026年9月25日～10月6日

3. 調査方法

調査票を郵送しFAX又はGoogle Formで回収

2. 調査対象

当所景気モニター企業28社

4. 有効回答数

24社（回収率85.7%）